

2025年度 第2回 公立大学法人埼玉県立大学経営審議会 議事録

日 時 2025年11月18日(火)14:40~16:35

会 場 本部棟大会議室(オンライン併用開催)

出席委員 田中議長、林委員、金村委員、岡島委員、戸所委員、澤登委員、遠藤委員

出席教職員 田中副学長兼学部長、常盤学長補佐、濱口研究開発センター長、善生専門職連携教育研修センター長、長岡副局長、新井調整幹兼総務担当部長、篠原企画・情報担当部長、出井財務担当部長、富田学生・就職支援担当部長
【オンライン】
横山研究科長、北畠情報センター長、田口学生支援センター長、上原地域連携センター長、滑川保健センター長、甲田施設管理担当部長、根本教務・入試担当部長

議事概要 ○:学外委員 ●:学内委員、事務局

【審議事項】

(1)令和7年度業務実績報告書(中間評価)について

資料に基づき、長岡副局長から説明した。

案のとおり理事会に提出することについて、異議なく承認された。

主な発言は以下のとおり

○106項目全てがA評価で順調に進んでいるとのことだが、民間企業等で考えた時、106項目もあれば2,3項目は順調でない項目が出てくると思われる。全てが順調に進んでいるということは、目標が低い可能性もあると思うがいかがか。

●今年度は各センターや各部署で点検した結果、106項目が順調に進んでいることが確認できたが、過去には予定していた事業が実施できず順調に進んでいない、との判断だったこともある。

○県から運営費交付金をもらっている中で難しいこともあると思うが、自分たちがチャレンジするような項目を設定することも必要だと思う。

- 来年度から次期中期計画の検討も始まる。本学としてこういった目標設定が良いのか、今後とも議論していきたい。
- 次期カリキュラムの改定にむけて、国際性・地域性の学修成果向上に向けた取組み等について検討を進めている、との説明があったが、具体的なアイデアがあれば教えてほしい。
- 現在 2027 年度のカリキュラム改正に向けて検討を進めている。今年度はディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーの改正案の策定を行っているが、そのディプロマポリシーの4つ目の項目に国際性・地域性に関する内容が含まれている。このディプロマポリシーの改正を受け、IPE 科目の中で国際的な医療に関連する項目を追加することを検討している。また、国際性、という点では、海外に目を向けるだけでなく、日本国内にいる外国人の方に対する保健医療福祉分野での支援が必要、という点を意識したカリキュラムの編成を予定している。
- 本学の年度計画は比較的定性的で、何を実施するのかを定めた計画になっているため、基本的にスケジュール通りであればA評価となるのが当たり前と理解しているがいかがか。
- そのとおりである。今回は1年間の達成目標と比較した際、全ての項目が順調に進んでいたことからA評価となった。
- 今回の中間評価は大学独自の評価とのことだが、1年間を通じての評価についてはS評価を加えた評価となり、A評価が標準でS評価がそれを超えた場合につく、という理解でよいか。
- そのとおりである。
- この中間評価が独立行政法人としての本学の評価の基礎データになるという理解で良いか。
- そのとおりである。現在は進捗状況を確認しているものであるが、年度末には実績と照らし合わせて4段階で評価し、法人評価委員会の基礎資料として提出する。
- 年度計画が定性的な計画だとすると、成果(アウトカム)はどのように評価しているか。
- 年度計画内になるべく数値目標を設定し、その達成状況で評価を行うようにしている。
- 次期中期目標・中期計画を来年度以降策定されるとのことなので、今後計画にアウトカムの内容を盛り込めるよう検討してほしい。
- キャリアデザイン講座について、大学1年生の時だけでは先のキャリアについてまで考えるのは難しいと思うので、1年生だけでなく2年生も対象としたことは非常に良い事だと思う。また、県内就職率の向上は本学としては重要な点なので、指定校推薦制度の紹介等の県

内就職を促進していることも非常に良いと思う。

○キャリアデザイン講座について、2年生も対象となったことは良いと思う。現在看護の世界では、就職時に自分でキャリアデザインやそのキャリアデザインに基づいた学習計画を立て、どういった看護師になりたいかを描く、という取り組みが始まっている。1、2年生だけでなく、就職直前の4年生にもキャリアデザインのたて方に関する教育をいただければと思う。

●看護学科では、4年生の授業においてそういった内容も盛り込んでいる。

○実習施設との連携強化や新たな実習施設の確保について教えてほしい。今年度から助産師の養成数を減らしたと記憶しているが、その主な原因は実習施設の確保ができなかったからであったと思う。その点はどう評価しているか。また高等看護院と比較すると県内就職率が低く、また、実習先施設での就職率も高くはなかった記憶がある。実習施設は学生がその施設に就職してくれることも期待しながら指導にあたっていると思う。その点はどのように考えているか。

●昨年度、適切な教育を行うことを目的として人数の見直しを行ったところである。今年度は、まだ必要な実習数が完了できていない学生もいるが、適切に対応を進めているところである。次年度以降、施設の人員配置の関係で受け入れができないと言われている施設もあり、新規開拓の必要はあるが、今年度については必要施設数を確保できたことから A 評価としている。

(2)令和7年11月修正予算について

資料に基づき、長岡副局長から説明した。

案のとおり理事会に提出することについて、異議なく承認された。

主な発言は以下のとおり

○埼玉大学との事業で本学が行う専門職連携を基盤にした講座 の概要を教えてほしい。

●テーマは「専門職連携を基盤にした保健・医療・福祉事業所の経営者と管理者のための実践的マネジメント講座」、田中理事長を初めとしてIPEアドバイザーなどを講師陣に計 5 講座を 2 月ごろからオンデマンド配信予定、受講料も無料の予定でいる。

(3) 令和8年度予算編成方針について

資料に基づき、長岡副局長から説明した。

案のとおり理事会に提出することについて、異議なく承認された。

主な発言は以下のとおり

○DXの推進とあるが、具体的にどういったことを行うのか。

●まずは老朽化したネットワークの更新を行う。他にも、使用している様々なシステムの入れ替えや統合などを行いたいと考えている。

○人員の削減目標などはあるか。

●DXの推進による費用削減も今後検討していくが、現在は業務を効率化させることで、その他の前向きな取組みに時間をかけられると考えている。

○医療現場においては、人員削減の補完としてロボット活用が進んでいく。おそらく教育分野でも、ロボットやVRを活用したりなど、教育のあり方が変わっていくと思われる。現在の資料からでは、このDXの推進が業務改善を目的としているのか教育や研究の質向上を目的としているかが判然としないので、具体的なイメージを持つと良いと思う。

●ご指摘いただいた点をしっかりと意識して進めていきたい。

(4) 人事院勧告及び埼玉県人事委員会勧告に基づく法人規則の改正について

資料に基づき、新井調整幹から説明した。

案のとおり理事会に提出することについて、異議なく承認された。

(5) 雇用PD制度導入に係る登録申請について

資料に基づき、濱口研究開発センター長から説明した。

案のとおり理事会に提出することについて、異議なく承認された。

主な発言は以下のとおり

○方針には賛成なので、ぜひ進めてほしい。この制度に参画し、研究者を受け入れることによる本学のメリットをそのように考えているか教えてほしい。

●国内トップクラスの研究者が本学にくることは本学の教員にも良い刺激になると考えている。その他として、この特別研究員を受け入れると研究費がついてくる点もある。

○本学独自の取組みとして、産学連携研究への参画機会を提供するとあるが、具体的にどういったイメージがあるか。

●研究開発センターではセンタープロジェクトとして共生社会や地域包括ケアの研究を推進している。もちろん自身の研究領域はあると思うが、本学が大学として主導している研究や教育を自身の研究に活かす機会として提供できると考えている。

【報告事項】

(1)2026年度科研費応募状況および2025年度科研費採択状況について

資料に基づき、濱口研究開発センター長から報告した。

(2)業績評価指標の推移について

資料に基づき、常盤学長補佐から報告した。

主な発言は以下のとおり

○寄附を増やすことが課題の1つと考えている。

●今年度、学生支援センターを中心として同窓会の活性化に力を入れている。また、10月から寄附拡大キャンペーンを開始した。新たにリーフレットを作成し、卒業生への送付や、清透祭での配布に活用している。現在、10月の寄附件数は10件で、昨年度同月比8件の増加となっており、効果が出始めていると考えている。

○大学に愛着を持ってきている学生は必ずいる。

そういった方たちとの座談会を何回も開くことで周囲にも広がっていくケースもある。

以上